# 観賞する消臭器 Bon Liverte（ボンリーベ）

## 発売開始

外寸(mm):
W205×H205×D47

### 空間力アップ!

ボンリーベは一見すると額のようなデザインで、空間のイメージを向上させることができます。中の絵は自由に変更できるので、設置する場所の雰囲気に合わせた絵や言葉を入れたり、お客様へのメッセージやイベント情報等を入れることも可能です。

### 消臭＆リラクゼーション効果!

ボンリーベには、森林浴消臭剤メンブレンの設置をお勧め致します。メンブレンは30種類以上の天然植物精油をブレンドした業務用消臭剤です。天然植物精油からはフィトンチッドが放出され、空気中の悪臭や、壁や床などに染み込んだ悪臭物質に反応し中和消臭します。また、フィトンチッドの特性で、カビやバクテリア等を抑制する他、リラクゼーション効果も発揮します。

Check Point! ボンリーベに内蔵されたシロッコファンが、消臭剤の成分を室内に拡散します。

▲設置イメージ

▲中の絵は自由に変更可能

## 主婦ライター・水仙の 水に流せない"厠"論

### 第2回 和式トイレにウンチ問題。入学後の第一関門はトイレにあり。

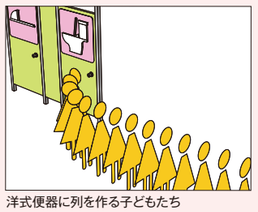
**水仙 美樹**
アメニティに約10年間勤務したのち、第二子出産を機に退職。一念発起して、フリーライターの道へ。現在は主婦＆ママの視点から地域やアートなどの情報を発信中。トイレウォッチも大好き！

そろそろ桜の季節。小学校の入学準備に忙しくされている親御さんも多いかと思います。

先日、娘と同じ小学校に入学予定のT君ママが「うちの子、和式トイレは怖くて1人で使えないの。今から練習しておかないと!」と言っていました。娘も小学校入学まで洋式トイレで育ったので、不安な気持ちはよ～くわかります。T君の幼稚園では古い和式トイレをあえて1つだけ残していて、それを使って入学式までに練習するのだとか。和式トイレにお目にかかることも少なくなってきた昨今、和式トイレを使えないまま入学する子もいるのでは…?

校長先生に聞いたところ、「できない子もいるし、やり方を知らない子もいる」とのこと。学校で指導はするものの、それでも苦手な子は職員室前の洋式トイレを使うそうです。さらに、「トイレ掃除を担当する4～6年生の児童に『おうちでトイレ掃除してる?』と聞くと、ほとんどがやっていない。家庭でもぜひやってほしいですね」と。知識とコツが必要なトイレ掃除は、子供にやらせたくても親自身がトイレの正しい清掃方法を知らない…なんてこともあるのかもしれません。

ほかにも、学校でウンチをするとからかわれるとか、おもらし予防にオムツを履く子がいるなど、学校トイレをとりまく問題はデリケートなことも多いもの。親も子も学校も、一緒になってトイレを考え、学ぶ場って必要なんじゃないかと思う今日このごろです。



洋式便器に列を作る子どもたち

### 編集後記

今回の中面"文献に学ぶ「トイレ文化」"では、「日本人は昔からトイレを大切な場所と考えていた」と分かる文献をご紹介致しました。現代でも「トイレを見ればその家、その会社が分かる」と言う方がいますが、茶人・千利休も同じことを謳っていたのです。昨今、日本のトイレは素晴らしいと賞賛されることがありますが、それは昔から受け継がれてきた、まさに日本の文化なのだと感じました。(雑撃弾治)

### information!

トイレ診断士達のブログ と検索してください。
http://www.toireshindan.com/

「トイレ診断士」によるブログをご存知ですか。全国のトイレ診断士が、トイレを通して思うこと、感じること、診断の実情などを赤裸々に語っています。お気軽に覗いてみてください。

### あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル 0120-57-1110（コンナ イイ トイレ）





トイレを楽しくする新聞
# かわや版
KAWAYABAN
2013 春号 Vol.42
http://www.amenity-network.net/
Amenity Network
[発行所] 株式会社アメニティ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717
Copyright©2013 AMENITY INC. All rights reserved.
本紙からの無断転載を固く禁じます。

## 特集 トイレとニオイ

トイレにおいて「ニオイ」の問題は大きな課題のひとつです。見た目や設備がどんなに良くても、トイレに入って「クサイ」と感じると、そのトイレは快適とはいえません。それほど、トイレのニオイは重要なテーマといえます。

### 好きなニオイ・嫌いなニオイ

ニオイの感じ方には個人差があります。それは、脳がニオイの判断をしているためです。その人が生まれた環境、育ってきた環境などでも、ニオイに対する好き嫌いが出てきます。例えば磯のニオイが好きな人・嫌いな人、お香のニオイが好きな人・嫌いな人等など。

なお、嫌なニオイと感じるのは脳が何らかの危険を感じ、それを回避するために「警戒」していることを意味しています。物が燃えるニオイを敏感に感じるのはそのためです。

実は、トイレで発生する代表的なニオイのアンモニアも、高濃度になると死に至らしめるものであるため、トイレで「クサイ」と感じるのは、脳が「警戒」しているからといえるでしょう。

アンケートなどで「トイレがクサイと感じると、お店自体のイメージがダウンする」という結果が出るのも、潜在的な危険回避の意識が働いているのかも知れません。

### ニオイの数値化

ニオイは数値化できます。前述のとおり、ニオイの感じ方は人それぞれ異なります。そのため「トイレがクサイ・クサクない」という感覚的な表現では、共通の認識はできません。客観的な判断をするためにはニオイを数値化することです。

ニオイの数値化には「臭気濃度」「臭気強度」「臭気指数」などの方法があり、臭気の種類や環境によって、適宜、使い分けをします。

### まとめ

トイレはそもそも排泄をする場所であることから、ニオイの発生を避けてはとおれません。そして、適切なメンテナンスがなされなければ、汚れの蓄積によるニオイや、下水臭やカビ臭など、常に嫌なニオイを発生し続けることになります。

トイレで嫌なニオイを感じたときは、発生元を解明し、原因に合わせた対策が肝要です。そして冒頭のとおり「ニオイの感じ方には個人差がある」ことからも、不特定多数の方が利用するトイレは、無臭が良いと考えられています。

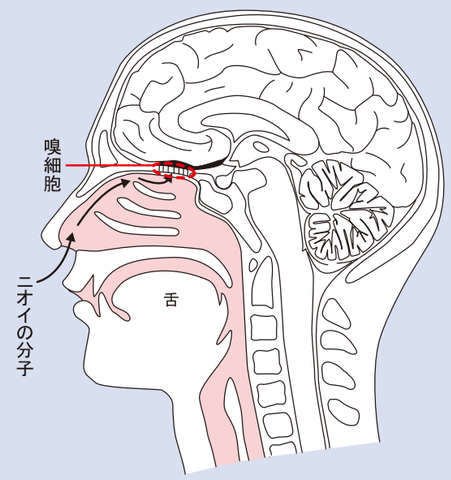
トイレとニオイの関係は、決して切り離せない課題であり、トイレの快適性を測る重要な指針といえます。

**[トイレで感じる主なニオイの種類と対策]**

| ニオイの種類 | 主な発生原因 | 主な対策 |
|---|---|---|
| 大便臭 | 排泄をする為 | 換気能力の向上や、消臭剤等による中和消臭 |
| アンモニア臭 | 尿による汚れや、尿石など | 尿の汚れや尿石の除去 |
| 下水臭 | 床排水口や洗面器等のトラップ部の破封 | トラップ部の水が無くならないようにする |
| カビ臭 | 清掃道具周りや、洗面台下の収納部等のカビ発生 | 清掃道具や洗面台下等を清潔に保ち、通気性を高める |
| きつい芳香臭 | 芳香剤の多用 | ニオイには好みがあることを意識し、香りが強くなり過ぎない様に注意する |

※ニオイは単一的な臭気だけではなく、数種類のニオイが複合していることが頻繁にあります。

### 人間がニオイを感じる仕組み




人間の鼻には、左右あわせて10円玉程度の大きさの「嗅細胞」があります。その嗅細胞（嗅覚受容体）にニオイの分子が付着し、その信号が大脳に伝わるとニオイを感じます。

世の中には、実に2000万種類以上の化学物質が存在し、その内ニオイがある化学物質は約40万種類です。人間の鼻は、実にそれほどの種類を嗅ぎわける性能があります。

# 文献に学ぶ「トイレ文化」

このコーナーでは、「トイレ文化」に深く注目し、トイレに関する興味深い文献をご紹介致します。

## 第2回 日本のトイレはもてなしの心

### 利休の茶会のもてなしは雪隠拝見

安土桃山時代に活躍した茶人大名の織田有楽（うらく）は、

“それ茶の湯は 客をもてなす
道理を本意とする也”

と述べていた（喫茶織有伝（きっさしょくうでん）より）。茶の湯は客へのもてなしを第一義とし、いかにもてなすべきかを創意工夫する道であると、説いているのである。だから茶人たちは客人に対して茶道具を吟味し、心をこめた点前で一服の茶をふるまった。当然、彼らは茶室の柱一本、露地庭の一木一草に対しても、気を配ることを怠らなかった。

こうした茶の湯の精神は、雪隠（せっちん）（トイレのこと）の形や使い方にも反映していた。

利休の教えを伝えているとされる『南方録（なんぽうろく）』によれば、茶会の当日になると亭主は雪隠を特別に清掃し、また招かれた客はわざわざ雪隠の内部を見て、亭主の心配りに感じ入るのが作法とされていた。いわゆる“雪隠拝見”である。

便所は汚いところ、不潔な場所という通念があるが、ここではむしろ、その便所の清浄さを示すことによって客をもてなすという、全く逆の発想に変えてしまったところにユニークさがある。『譬喩尽（たとえづくし）(＊1)』に三物と題して、以下の所以（ゆえん）を謳（うた）っている。

“茶の湯せば　亭主に三つの　馳走あり
酒・飯・雪隠　気をば付くべし”

【解釈】茶会を開くなら、主人は３つのもてなしを準備するとよい。「お酒」「お食事」「トイレ」、これらに気を配るべきである。

（＊1）『譬喩尽』松葉軒東井編。「ことわざ」「慣用句」類を集めた辞書。天明七年（1787）成稿。

**［出典］** 便所のはなし（29、40～42頁）
発行所：鹿島出版会
著　者：谷 直樹・遠州敦子
発　行：1986年12月25日（第1刷）

エドワード・モース

### モースも絶賛した和風便所の芸術性

E・モースの名は、東京大森の貝塚を最初に発見した人物として、歴史の教科書にも登場する。しかし彼は動物学を専攻する学者で、明治10年（1877年）、御雇外人教師として来日し、2年間、東京大学で動物学を講義した。この間、ダーウィンの進化論を普及させ、多くの人材を育てあげるという実績を残した。

彼は滞日中ずっと絵日記をつけていたが、帰国後、それに民族学的考察を加えて“Japanese Homes and Their Surroundings”というタイトルの本を公刊した。「日本人の住まいおよびその生活空間」とでも題することができるこの本の中で、彼は動物学で鍛えた鋭い観察力を駆使し、日本の住生活の特色を、時には西欧文明との比較を交えつつ展開している。

話題は便所にまで及んでいて、「便所といえども、日本家屋では、芸術的感性ある日本職人は、これに注意を払っている[画①]」と述べ、町中と田舎の二例を挙げている。

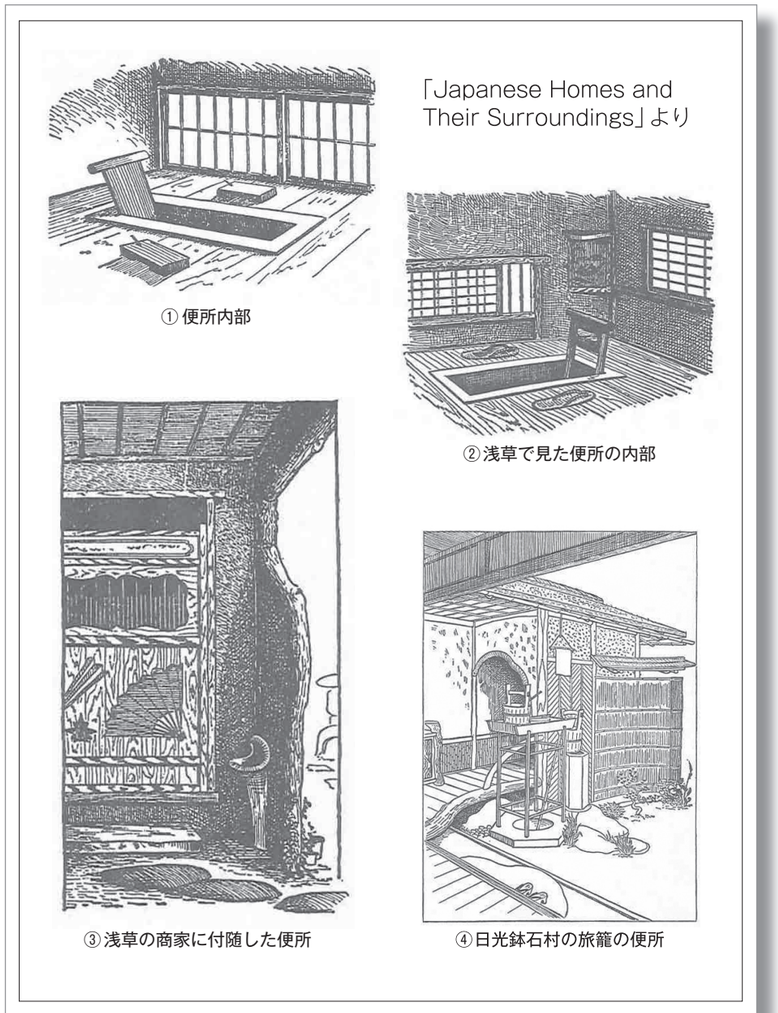
一つは東京浅草にある商家の便所[画②③]で、戸にさまざまの色の材質の木を用いた象眼細工による模様があって、美しい指物細工の見本のようであると絶賛している。この便所は内部も図示してあって、入念な仕上げと清潔さを特筆している。

もう一つは日光に近い鉢石村の旅籠でみた便所[画④]である。モースは渡廊下の縁取りの自然木の幹や、便所の入口の潜りに使われた葡萄づるのアーチなどの素材に注目し、外側の竹垣とその前に小さな植木を配した趣味をほめ、さらに木製の四脚台と手洗桶が、外国人客には一段と使いよい設備であることを記述している。

そして「日本のある地方の村の旅籠で描いたこのスケッチを細かく検討したならば、キリスト教国の多くの村々に、はたしてこれに類似した便利な設備があるかどうか、ひとつ公正無私に想い起してみるとよいのである」と結んでいる。

当時、欧米人の日本観は、東洋の辺境に位置する遅れた国ぐらいの認識しかなかったが、モースはこうした先入観に対して、欧米と日本を同列において比較し、**こと便所に関しては、もっとも生活に根ざした場所であるにもかかわらず、欧米人より日本人の方が空間的な豊かさを追求している**と高く評価しているのである。

便所に関して、モースには一つのエピソードが残されている。彼は東大で動物学科を創設した時、将来入学するであろう女子学生のために専用便所を設けるようにと強く主張し、ついに当時としては学内唯一の婦人便所を作らせたというのである。

東大動物学科に初の女子学生が進学してくるのは、それから80年も後の昭和31年になるのだが、進化論者として時代の発展を信じていたモースの、面目躍如たるものが伝わってくる話である（＊2）。

（＊2）畑正憲「モースと便所」（『ムツゴロウの博物誌』所収）